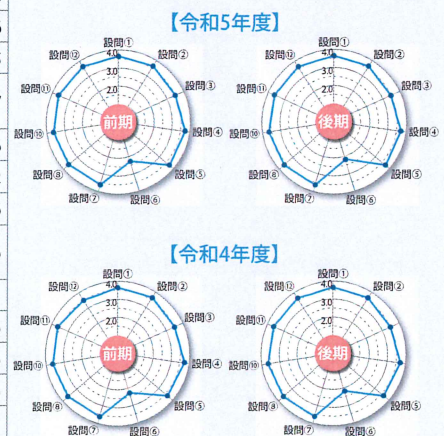


【令和5年度(前期・後期)授業アンケートの実施報告】

表1 アンケートの設問

	令和5年度 前期	令和5年度 後期	令和4年度 前期	令和4年度 後期
■設問① 私は、この授業科目の目的と意義を理解できた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問② 私は、この授業科目に意欲的に取り組んだ。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問③ 私は、この授業科目の到達目標を達成した。	3.5	3.5	3.5	3.5
■設問④ この授業科目は、授業計画の内容どおり進められていた。授業計画に変更があった場合に、変更点についての説明があった。	3.7	3.7	3.7	3.7
■設問⑤ この授業科目において、事前・事後学習の内容及び指示は適切だった。	3.7	3.7	3.6	3.6
■設問⑥ 私は、この授業科目の事前・事後学習を行った。(レポート作成時間を含む)	2.3	2.2	2.3	2.2
■設問⑦ この授業科目において、到達目標、評価種別及び評価基準について説明があった。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑧ この授業科目において、シラバスに記載されている能動的学習の授業手法(ミニッツペーパーなど)を実行していた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑨ この授業科目において、適切なタイミングで理解度の確認を行っていた。	—	—	—	—
■設問⑩ この授業科目において、学生の意見に対するフィードバック(改善)等を実行していた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑪ この授業科目において、授業を妨げる行為(私語・携帯電話等)に対し、適切に対応していた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑫ 私は、総合的に、この授業科目の教え方に満足した。	3.6	3.6	3.5	3.6
■設問⑬ この授業科目において、良かった点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑭ この授業科目において、改善して欲しい点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑮ この授業科目において、授業の速度についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑯ この授業科目において、課題の量についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑰ この授業科目についての意見がありましたら記入してください。	—	—	—	—

表2 レーダーチャート



■補足

1. アンケート回答の平均は、回答1×4、回答2×3、回答3×2、回答4×1で加重合計し、回答1~4の回答件数合計で除して平均を求めています。
2. 全学平均は、全学部の総数により算出しています。

本学では学修の可視化を図るとともに学生の意見をシラバスに活用することを目的として、Webを利用した授業アンケートを実施している。

表はアンケートの設問であり、それらを以下の5つの観点にまとめて評点の平均を算出して検討した。

- 「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」、
- 「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」、
- 「学生、教員双方向の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」、
- 「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑮、⑯)」、
- 「学生の満足度(設問⑫)」

アンケートは合計16問と設問⑬の自由記述から構成し、設問①～⑧、⑩～⑫は4段階評価、設問⑨、⑮、⑯は3段階評価で、大きい数字を高い評価としている。なお、設問⑬、⑭は7項目の選択肢から3項目選択することになっている。また、評点については、4段階評価の項目のみ算出している。

●前期(回答者数:のべ23,677人/41,943人、回答率:56.5%)

- 「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」:3.3
- 「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」:3.7
- 「学生、教員双方向の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.6
- 「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑮、⑯)」:3.6
- 「学生の満足度(設問⑫)」:3.6

●後期(回答者数:のべ19,975人/40,881人、回答率:48.9%)

- 「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」:3.2
- 「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」:3.7
- 「学生、教員双方向の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.6
- 「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑮、⑯)」:3.6
- 「学生の満足度(設問⑫)」:3.6

以降は令和5年度の授業アンケート結果を2018年(平成30年)から2023年(令和5年)までの過去6年間のデータと比較した。特に、2020年からの新型コロナウイルス感染症流行によるオンライン授業導入の影響について重点的に分析する。

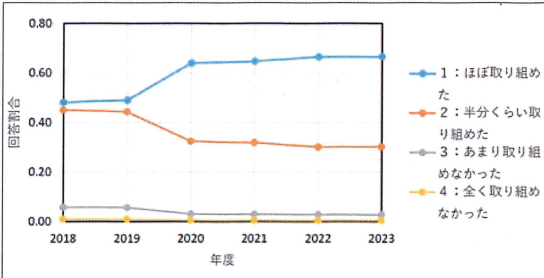
図1は、設問②「該当授業に意欲的に取り組んだかどうか」の回答割合を年度ごとに比較したものである。2020年以降、「1:ほぼ取り組めた」の回答割合が顕著に増加していることが分かる。これは、オンライン授業の導入により、学生が自宅でき集中して学習できる環境になったことが要因と考えられる。2022年に完全な対面授業が再開された後も、この傾向は続き、わずかではあるがさらに増加している。これは、オンライン授業で培われた学習習慣が継続していることを示唆している。

図2は、設問⑬「該当授業科目で良かった点を3つ挙げる」の回答内容を年度ごとに比較したものである。新型コロナウイルス感染症流行以前の2019年と2020年を比較すると「2:授業の資料」の回答割合が増加し、「4:板書の方法」や「6:特になし」の回答割合が減少していることが分かる。これは、オンライン授業の導入により、授業資料がオンライン化され、学生がいつでもどこでも学習資料にアクセスできるようになったことが要因と考えられる。教員もオンライン教材の作成に力を入れたことで、授業資料の質が向上し、学生の評価を高めたと考えられる。2022年に対面授業が再開された後も、「授業の資料」に関する高い評価は維持されており、オンライン授業で培われたノウハウが対面授業にも活かされていることが伺える。

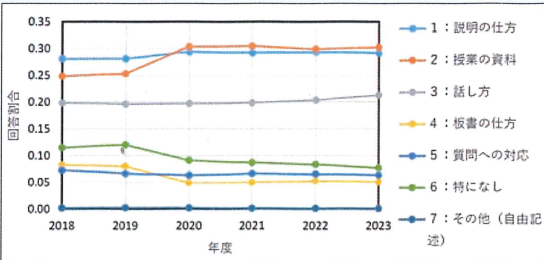
図3および図4は、設問①～⑫の高評価の回答割合の経年変化を比較したものである。いずれの設問でも、2020年以降に回答割合が全体的に増加しており、2023年でも高い割合を維持していることが分かる。これは、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業の導入が、授業の質向上につながったことを示唆している。特に、「授業の事前・事後学習」に関する評価(設問⑥)が最も大きく向上している点が注目される。

以上令和5年度まで6年間の授業アンケート結果の分析から、2020年からの新型コロナウイルス感染症流行によるオンライン授業導入が、学生の授業に対する意欲と評価に好影響を与えたことが明らかになった。今後は、オンライン授業で得た有益な授業ノウハウを有効に活かし続けることが必要かもしれない。

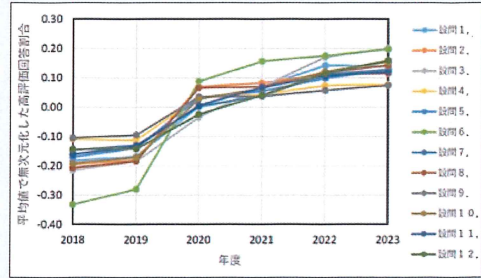
(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

